

## かんばらかんのんどうの「石だん」

この石だんは，もともと 50 だんありました．でもいまは 15 だんしかありません．残りの 35 だんは地面の下にあります．

おにおしだして起こった大ばくはつで，岩や泥がおそって来ました．それが石だんをうめてしまったのです．村びとのうち，この石だんをかけ上がった 93 人は助かりました．463 人は岩と泥にのみこまれてしまいました．

石だんを上がって，かんのんどうに，おまいりしてください．おまいりしたら，なにがもらえるかな？



かんばらかんのんどうのとなりにある<sup>つまごいきょうどしりょうかん</sup>孀恋郷土資料館で，きょう勉強したあさま山<sup>べんきょう</sup>のてんめい三年ふんかを，ふくしゅうしましょう．ビデオもあるよ．

-----  
早川由紀夫（はやかわゆきお）群馬大学 2001.7.28

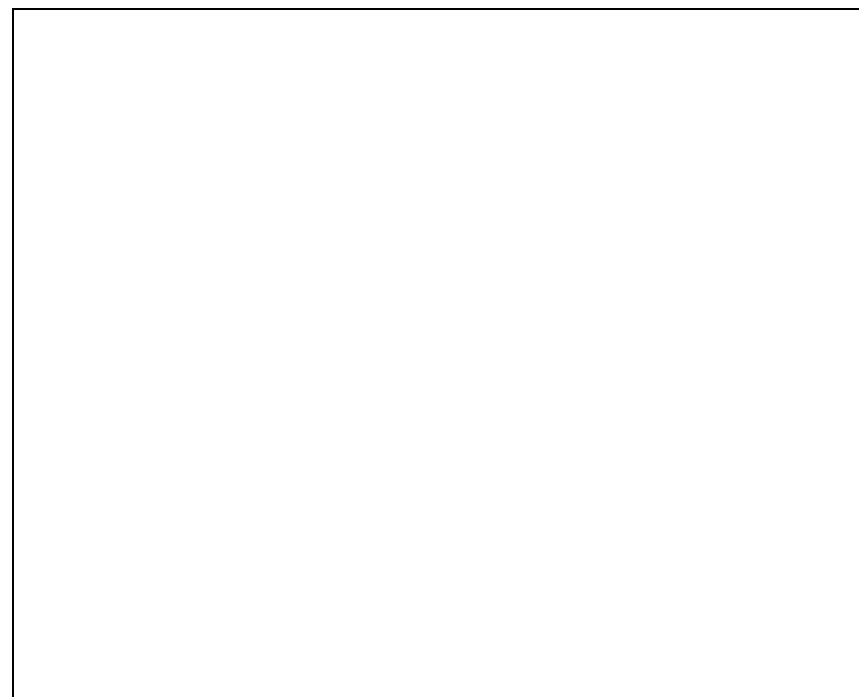
## あさま山のふんか

年 月 日 なまえ \_\_\_\_\_

あさま山は，<sup>かざん</sup>火山です．

あさま山は，5 万年前ころに生まれた火山です．山<sup>さん</sup>のてっぺんから，なんどもなんども火をふいて，いまのような大きな山になりました．

あさま山がみえたら，車をおりて絵をかこう．



あさま山の高さは 2568 メートルあります。山のとっぺんまで、歩いてのぼることができます。4時間くらいかかります。帰りも 3 時間くらいかかりますから、けっこうたいへんです。

とっぺんには、大きな<sup>あな</sup>穴があいています。「ふんかこう」といいます。このふんかこうからくさいガスがいつも出ています。そして、ふんかこうの下で、じしんがときどき<sup>お</sup>起こっています。

200 年前のふんか

あさま山は、いまからだいたい 200 年まえに大きなふんかをしました。江戸時代の、<sup>えど</sup>江<sup>じだい</sup>戸<sup>なつ</sup>時<sup>なつ</sup>代の、てんめい三年の夏でした。いまのこよみでいうと、1783 年です。

大ばくはつでとんできた石にあたって、<sup>かるいざわ</sup>軽井沢でふたり<sup>し</sup>死にました。

大きな岩がまじった<sup>どろ</sup>泥がおしよせてきて、1400 人が死にました。むかしの人たちは大さわぎになりました。

きょうは、このふんかでできた「よう<sup>がん</sup>岩」や「かる石」などをみて、てんめい三年にあさま山で何が起こったかをしらべます。

みねのちゃやの「かる石」

かる石が 2 メートルくらいついています。かる石は、マグマのぬけがらです。

てんめい三年の<sup>あつ</sup>暑い夏、地面の中にかくれていたもっと<sup>あつ</sup>熱いマグマが、ふんかこうからとびだしました。

プリンスランドの「大きな岩」

この大きな岩は、さっき私たちがいた「おにおしだし」のところから、つっぱしってきました。時速 200 キロメートルくらい<sup>しんかんせん</sup>新幹線のスピードです。

おにおしだしの「よう岩」の先っぽで、とつぜん、大ばくはつが起こったのです。1783 年 8 月 5 日の午前 10 時のことでした。

大ばくはつで、おにおしだしのちかくにあった山がくずれました。くずれた岩と泥は、ものすごいスピードで北がわへ流れ下りました。近くの村をのみこんだあと、岩と泥は、あがつま川にはいつて、川べりの村のみこんでしまいました。わずか 2 時間で、<sup>まえはし</sup>前橋まで<sup>とど</sup>届きました。あさま山と前橋のあいだで、1400 人が岩と泥にのみこまれてしまいました。

プリンスランドの大きな岩をかこう。長さは何メートルくらいだろうか？



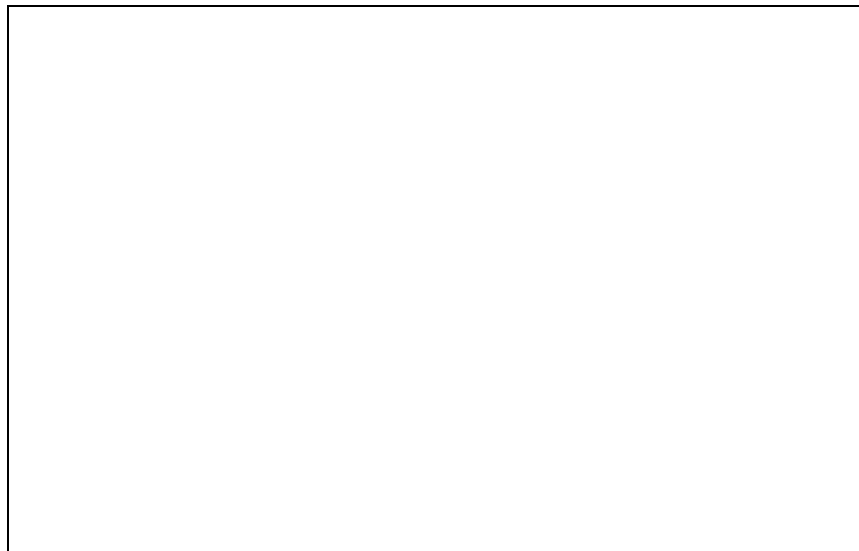
おにおしだしの「よう岩」

大きな岩がごろごろしています。これが「よう岩」です。これも、あさま山のてっぺんの「ふんかこう」から流れてきました。

でも、よう岩の流れはとってもゆっくりです。人が歩くはやさよりおそいから、よう岩にまきこまれて人が死ぬことは、ふつう、ありません。

大きなゴツゴツした岩だけが見えますが、中には「あんこ」がかくれています。この「よう岩」が流れているとき、その「あんこ」はドロドロにとけていました。だから、こんなにゴツゴツでも、ゆっくりと流れることができたのです。「あんこ」は、いま、すっかりひえて固<sup>かた</sup>まっています。

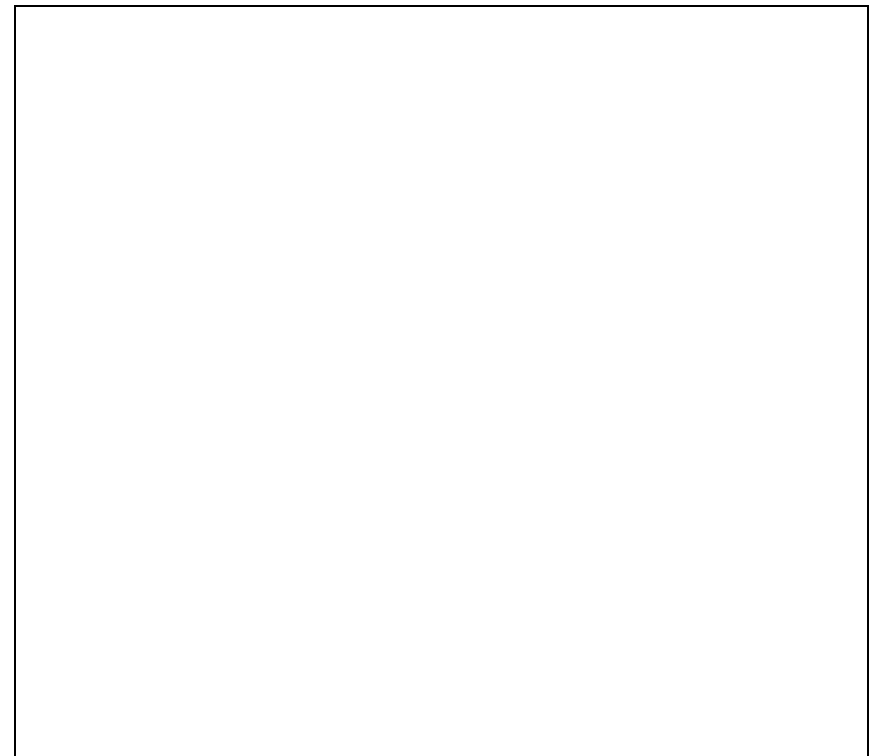
おにおしだしの「よう岩」のゴツゴツをかこう。よう岩の上にはえている木もかこう。



コーラのびんをふってから、せんをぬくと、コーラがバァーッとびちります。コーラの中にはいっている「たんさんガス」のせいです。マグマのなかにもガスがはいっています。それが、いきおいよく出てきて、ふんかが始まります。

ふんかのときにガスといっしょに出てきた熱い岩が、ひえて固<sup>かた</sup>まったのが「かる石」です。だから、かる石は、マグマからガスがぬけたあとの、ぬけがらです。

かる石のつみかさなりをかこう。つぶの大きさや色に注意<sup>ちゅうい</sup>しよう。



かる石をひとつ手にとって、よく見てください。ガスがぬけたあとの穴がいっぱい見えます。穴がいっぱいあいているからかるいのです。だからかる石。

かる石をひとつビニールぶくろに入れて持ち帰って、くさつおんせんのお湯にうかべてみてください。うかぶかな？

黒まめがわらの「かさいりゅう」

黒い「そう」が見えます。これは「かさいりゅう」がのこした「ちそう」です。

この「かさいりゅう」は、あさま山のとっぺんの「ふんかこう」からあふれ出てきたものです。そのはやさは、<sup>こうそくどうろ</sup>高速道路を走っている車と同じくらいでした。<sup>じそく</sup>時速100 キロメートルくらい。

「かさいりゅう」は、<sup>いた</sup>熱いし、<sup>いた</sup>痛いので、まきこまれると、生き物はひとたまりもありません。みんな死んでしまいます。

この「かさいりゅう」は、森の中に広がっただけでしたから、人は、ひとりも死にませんでした。江戸時代は、夏でもこのあたりに<sup>きやく</sup>かんこう客はいなかったのです。

よう岩のように固いのは、この「かさいりゅう」がここまではるばる流れてきても、まだ熱かったからです。熱かったから、いったんこなごなになったものが、ここでまた、くつつきあってしまいました。

「かさいりゅう」とその下の「ちそう」のつみかさなり方をかこう。好きなところを二か所えらんでかこう。

